



## 歯なしの話

～ 津山歯科医師会 ～

数回にわたって、歯がすべてなくなってしまう話をしましょう。歯科では無歯顎と言いますが、総入れ歯を入れる口の状態になった場合の顎がどのようになるのか、またどのようにして歯科では食べ物が噛める状態に回復するのかを少し専門的な知識とともに話してみたいと思います。

なるべく歯を残し、自分の歯で一生おいしく食べることができればとても幸せなことです。8020運動などが提唱され、皆さんの関心も高くなってきています。しかし残念ながら歯がすべて抜けてしまう人がかなりいるのが現状です。歯科というくらいですから歯を取り扱う事が多いのですが、歯のない口も歯科の重要な分野ですね。

今回は歯が抜けた顎がどうなるのかをお話ししましょう。

歯は歯槽骨という骨に植立しています。歯周病でグラグラしたり、むし歯で保存が不可能になった歯が抜れたり、抜いた場合、この歯槽骨は時間とともにすべてなくなってしまいます。もちろん抜けた直後は残っていますが、傷が治り、抜いた穴（抜歯窩といいます）が埋まり、長時間かけて吸収されていきます。



専門的には歯が抜けた場所は顎堤とよばれ、その部分の歯肉は顎堤粘膜と呼ばれるようになります。入れ歯を長期間使用していると顎堤と入れ歯との間にすき間ができてきますが、これはどんどん骨が吸収し変化してくるからです。

凸凹して高く盛り上がった形の顎堤は吸収が進むと顎骨までもが吸収し、つるんとした、逆に凹んだ形態にまでなってしまいます。入れ歯を作る場合、高い顎堤であるにこしたことはありません。つるんとした平らな顎で堤は入れ歯の安定を得ることはとても難しいものです。

歯がなくなるとどんどん吸収していく顎の骨、逆に言うと顎の骨は歯が残っていることで吸収したり、痩せたりしないですんでいるといえるかもしれません。

無歯顎と言え、生後6カ月くらいまでは赤ちゃんも歯がありませんね。赤ちゃんの顎はこれからどんどん歯が生えてどんどん高く大きくなってゆきます。でも歯が抜けた後の無歯顎はどんどん吸収して痩せてゆくだけなのは残念です。その無歯顎にもう一度歯を回復させるのが、歯科の入れ歯の出番ですね。



次回は総入れ歯の話をしましょう。